

光明禅寺

第520号

令和八年一月

現在に活ける

仏の教え

電話

21

4127
(21回線)

ケ131

090

79123

FAX

24

1

3519

事を行うにあたって、いつから始めようかなどと考えて、いるときには、すでに遅れをとつていいのかだ。

一月の行事

一転大般若会祈願・修正会

一一二日朝六時

他人の癖ほど、直したいと思わせるものはない。

一 晓天坐禪会
第一日曜(十一日)
第二日曜(二十一日)朝六時

また何があつたら、すぐ連絡して、夜中でも駆けつけるから!

(仮さまの言葉)

一地藏尊・水子供養

二十四日二時

男は船。いろんな港に入る。
女は港。いろんな船が入ってくる。
そういうものよ。

謹んで新春のお慶びを
申上げます

旧年中は大変お世話様になり
心よりお礼申し上げます
本年が皆様にとりまして 良き
年でありますよう

心よりお祈り申し上げます
本年もよろしくお願ひいたします

令和八年 元旦

佐藤 野口 良雄

△ 勝 助 簿 △

園田 隼人様 お花代を頂きました。

皆様方にお知らせ致します
有難うござります

お知らせ

今年も一月九日 長島町平尾
祐昭亭様に朝六時頃 家を出て
成道会のお年伝へに行きました
お寺の方は不在とあります。帰り着
くのは夕方五時頃となりました。
命日 年忌等がある場合は おもつて
早めに連絡を下さいますように。
感謝と祈り
新年あけでどうぞ

たた今ご本尊様に新年のお参り
をしていただきました。

本年も皆さま方ご健勝で、よい年で
ありますようにお祈り申し上げます
新年とは、暦が帰るとともに、もの
みな改まる時であります。そうした
めでたい時に当たり、仏様に感謝し

世界と一家の平安を祈ることは尊いことです。祈りというのは、心に方向けをすることです。平和であつて欲しい、という祈欲しい、幸せであつてほしい、という祈りによって、人もまた祈りの心に引かれ、されつゝくわけあります。

小林一茶の

めでたさも中ぐういなり俺うがはる
は有名です。年寄りになつてみると、正月になつたからといって特別めでた、ことがあるわけでもなし、とにかく昨年も無事に過ごして、こうして新年を迎えられて有り難いことだ、というような、落ち着いた老人の心境を読んだのです。

清水径子という人は、

かうす

と詠んでいます。

カラスは不吉な鳥と云ふけれど、正月だつてもいつもと変わらず、田圃で日常のままに遊んでいるじゃなつですか。正月だつて、平生と何う変わらぬことではありきせんか、という意味です。つもと変わらぬ平生の日常が一番平和です。そこへ「正月」という節日をつけ、「祈り」と感謝して、この神仏の恵みや、喜びを輝かせていくのがお正月かと思ひます。

井原西鶴は「日本永代蔵」で、二

いっています。

天道いやすして国土に恵み多し
人は実あつて偽りあおし

天地自然は、何も言ひないで多く

のものを人間に惠んでくれている。

人間は誠実な心もあるけれども、嘘も多い、気をつけたいものです。

「法華經」宝塔品に、
娑婆世界すなむち變じて清淨なり
といいます。

お正月を契機にいたしまして、平和を
祈り、感謝いたしたものであります。

生命の尊さ

「一年の計は元旦にあり」。古来、禪僧は元旦に「遺偈」を作成するを心得とします。なうは、怪我の功名、災厄に備えて下へ下へ、試練と有り難く受け止め、命を静かに考えてみますよう。人は、この世にはといっただき、歲月を送る時、諸々の喜びや悲しみに出会いります。それは予告なく突然に起ります。そして、それは時

として生命を簡単には奪い去ります。私たちは、日頃健康である時は、身は見え、耳は聞こえて当たり前、自分の意志により、手や足が自由自在に動くことに、それほど有り難さを感じていません。

ひとたびここが起ると、人間の五体において、何一つ無駄なものはなく、肉体の不思議と、生命の尊さを知らざれ、「生かされている自己」に気がいづく時、おのれの生命のせぬらず、生きとし生けるすべての生命に「畏敬の念」をもち、今あること、無上のお言ひと感謝する心を再度忘れてはならぬ」と、新年を迎えて改めて自覚したいと思ひます。